



在宅医療は健幸医療

長尾 和宏

医療法人社団裕和会・理事長
長尾クリニック・院長

今は札幌在住、市役所にお勤めの女性(27歳)からのご相談です。



よくある質問です。今回は三つの論点に分けて書きますね。

自宅か？ 施設か？

自宅か施設かの二者択一ではなく、自宅と施設を行ったり来たりという選択肢もあります。

5年前事故で祖父が亡くなり、79歳になる祖母、両親(中学教師の父・54歳、母・54歳と一緒に暮らしています。去年の12月、祖母が夜中にトイレで倒れ、緊急搬送。脳梗塞と診断され手術を受けましたが、左側がほとんど麻痺に近い状態になってしましました。入院当初は介助がなければほとんど寝たきりに近い状態でしたが、リハビリ病棟に移つてからは言葉もしつかりしてきていて、車いすの時間も増え、少しづつですが食事もどれようになってきているようです。先日、担当医師から祖母の退院後についての確認がありました。退院後は自宅で介護というのが私たち家族の希望でしたが、担当医師からは「介護なしには日常生活を営むことは難しい状態なので、もう一度よく相談されたほうがいいですよ」と言われ、看護師さんからもこの病院の提携施設をすすめられました。これ以上私たちに迷惑をかけたくないと考えているのか、病院から言われているのか、家に帰りたいという気持ちが一番強いはずの祖母も施設でいいよと言います。一緒に話を聞いていた母がとても落ち込んでいましたので、以前長尾先生が記事の中で「大切なことは、大切なお母から大丈夫。大切なことは、家族にとって大切なおばあちゃんの問題をお母さん一人だけで抱え込まない」と話していたことがあります。お母さん一人だけで抱え込まないこと。行き詰ったくらい、叶えてあげよう。今はいろいろな介護サービスがあるから大丈夫。大切なことは、家族にとって大切なおばあちゃんの問題をお母さん一人だけで抱え込まないことが大切だと長尾先生も言ってたから、まずは地域包括支援センターにいる大学の先輩に相談してみるね」と話してからは少し安心したのか、やっと母の笑顔を見ることができるようになりました。このコロナ禍のなか自宅での介護の準備を進めるにあたり、私たち家族に何かアドバイスをお願いできないでしょうか。何卒よろしくお願い申し上げます。

になります。ケアマネはその施設

のケアマネがやることが原則なので、在宅から移行する場合はケアマネの交代が必要ですが、病院からそのままつる場合はその必要はありません。

ショウタキ・カンタキ以外には、ちょっととマニアックですが「お泊りデイサービス」や「ロングショート」という使い勝手がいいカテゴリもあり、これらを利用して自宅と施設を自由に行き来している人もおられます。当院の在宅患者さんでも何人かいます。要介護度によっては自費分の負担が問題だという人もいますが、高額な有料老人ホームと比べたらずっと少ないです。介護施設といえども誰でも特養や老健、老人ホームを思い浮かべます。自宅か施設かの二者択一ではないことは知つておいてください。

本人の本音と家族の本音

本人は常に「家族に迷惑をかけたくないから」というものです。一方、家族は「介護が大変だから」となるのが普通です。しかし、お

互い本音はどうなんでしょうね。

両者の間に僕が入ったならば、「もし家族に迷惑をかけなければ本音はどうですか？」それでも施設ですか？」と聞いてみると、そこで、答えは「一つに分かれます。

「そりや、家がいいよ」と言う人と、「いや、家族の世話になるのは絶対イヤだ」とか「たとえ独居でも施設がいい」と言う人に分かれます。人それぞれ違います。こうした「対話」の機会を一度作ってみてはどうでしょうか。

もしコロナ禍で難しければオンラインでも構いません。できればベテランのケアマネさんや在宅医、訪問看護師なども加わっていただきたほうがより具体的な会話になるでしょう。

実は、こうした話し合いのこと

を人生会議(ACP)といいます。

一回の話し合いでなく、一回以上やってください。その都度、結論を出すのが目的ではなく、自由に話すことが大切で記録に残して下さい。そんなプロセスを踏むことがなによりも大切です。人間の気持ちは常に揺れ動きますから、必ず複数回行ってください。

介護体験者やその著作を読んで勉強すること

不安があるでしょう。当然です。そんな時、介護体験者に相談することは有意義です。全国各地に「つどい場」のような、介護者が情報交換できる場所が増えてきました。

行政が運営する地域包括支援センターの相談員に相談するのもいいでしょう。思い切っていろんな人に相談してみると、自分の本音や悩みにも自ずと気づくでしょう。すでに介護日記や介護経験談など、在宅介護に関する書籍が山のように出ています。そこには介護に関する実際的なことが生々しく書かれています。そうした書籍をネットで買ったり、Kindleで読むことは誰もすぐに実行できます。情報は多いほどいいです。一般論は書籍から、地域の現実論は口コミから得ましょう。



ひとりも死なせへん
著者/編集:長尾 和宏
出版社:ブックマン社
価格:1,650円(税込)

好評発売中
ひとりも死なせへん
～コロナ禍と闘う尼崎の町医者、551日の壮絶日記～
本書は2020年1月より2021年8月の長尾和宏のブログから主にコロナ関連の記述を抜粋し加筆、編集したものである。
一人の町医者の闘いの軌跡であるとともに、日本のコロナ対策を振り返るための、貴重な記録にもなった。まるで、カミュの「ペスト」のように。

しいと思うならやってみましょう。もしも迷うなら、一度やってみてから考える、という道もあります。

自宅か施設かの二者択一ではなく、自宅と施設を行ったり来たりという選択肢もあります。同様の状況の場合、自宅と施設を行ったり来たりできたり、という選択肢もあります。自宅か施設かの二者択一ではなく、自宅と施設を行ったり来たりできたり、という選択肢もあります。

よくある質問です。今回は三つの論点に分けて書きますね。

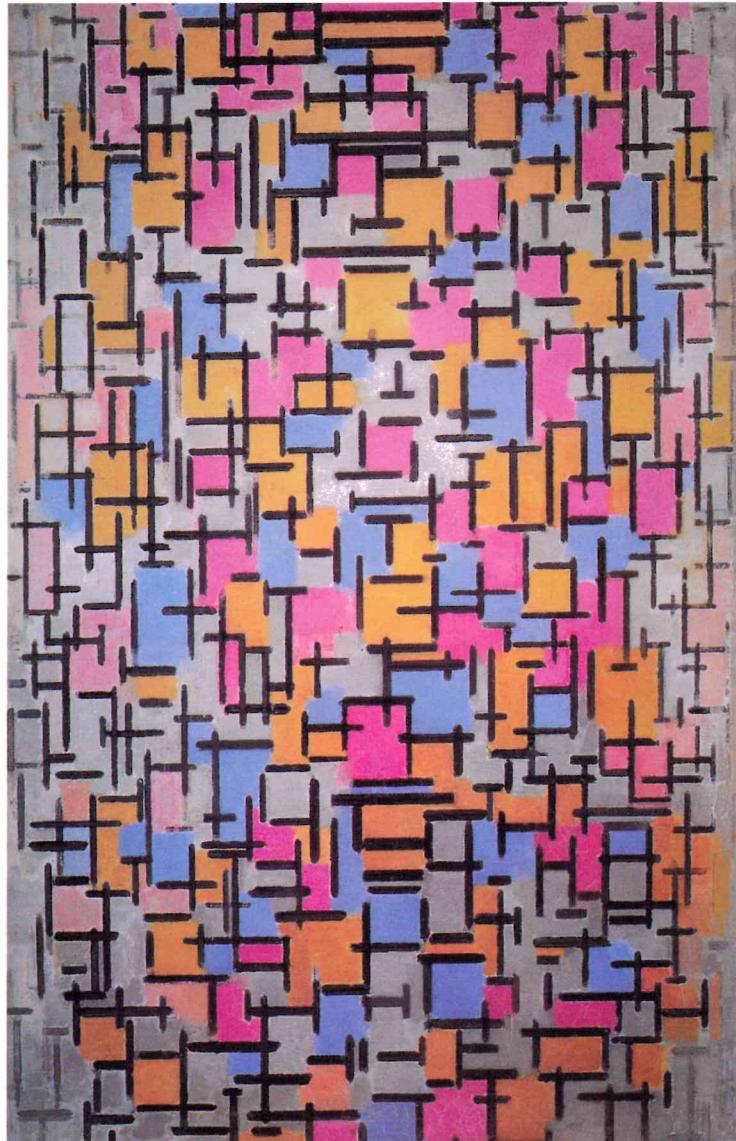
お答えします！

以上の三つのアドバイスを参考にして頂き、後悔のない介護をしてください。在宅介護を苦役だと思ふならやめておきましょう。樂

きらめき
Plus

Volunteer

2022 March Vol.92



バリアフリー演劇

東京演劇集団 風 江原 早哉香

命どう宝(命こそ宝)から結どう宝(繋がりこそ宝)へ

一般社団法人 結515 比嘉 盛也

わたしの人生はご縁と共に

周 来友

人と繋がれるのは歌のおかげ

琴 けい子